

鳥獣の 保護管理

地域一体となって獣害対策に取り組む（浜田地区）

～ 獣害に強い集落づくりを目指す ～

研究の背景・目的

本県では、市町や集落等による被害対策の取り組みはあるものの、中山間地域を中心に野生鳥獣による農林作物等への被害は依然として深刻な状況です。浜田市は県内でも有数の西条柿の生産地ですが、クマによる被害が多発しています。そこで、浜田市のカキ園において、集落ぐるみの獣害対策による実践型研究プロジェクトを実施します。地域住民の意識調査から地域一体となったクマ対策に取り組むための集落へのアプローチの方法を模索しながら、その手法を確立します。

研究方法

浜田市の田橋、横山集落において、地域が一体となった獣害対策の取り組みの効果を検証します。出没・被害状況を集落の土地利用や森林環境などから分析して、効果的な被害対策のための技術手法を確立します。また、集落ぐるみでの被害対策の取り組みにマンパワーが不足している場合の解決策についても検討します。

研究状況

各集落での被害状況や集落ぐるみでの被害対策の取り組みへの意識等を把握するためにアンケート調査を実施しました。「獣害は増えたか」には、「イノシシは増えた」55%、「クマは増えた」32%と被害は増えていました。「獣害対策は誰が中心となって行すべきか」は、「集落全体で取り組む」が56%と最も多かったが、「各自で取り組む」47%、「市町が取り組む」45%も多かった。また、「集落一体での取り組みに参加するか」には、「積極的に参加する」と「できる範囲で参加する」が80%と多かった。したがって、行政へ依存する意識は高かったものの、集落一体での取り組みへの参加意欲は高く、今後の集落ぐるみでの獣害対策は期待できます。

集落点検を2013年年6月2日に田橋上集落と横山下集落、2013年6月9日に横山西集落と田橋下集落で実施しました。4集落の合計29人の参加者で誘引物や柵の不備などを確認して、集落点検マップを作成しました。集落内には、カキ園106か所、放棄カキ園3か所、山際等にあった単木のカキ88本と他の果樹33本がありました。また、イノシシ用のワイヤーメッシュ柵の破損や休耕地でのイノシシの掘り起し等を確認しましたが、クズ野菜や生ごみを捨てた水田や畑は2か所と少なかった。今後は、山際にあったカキやクリを伐採または管理の仕方を検討する必要があります。



写真1 集落点検の様子(左)と点検マップの作成(右)

研究成果の活用・今後の研究計画

モデル地域において、地域一体となった獣害対策によって被害軽減効果が実証できれば、効果的な取り組みとして、県内全域へ普及させることができます。

また、獣害を集落の許容範囲に抑えることによって、集落の維持と活性化につながります。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 鳥獣対策科

研究担当者 : 澤田 誠吾

問い合わせ先 : 0854-76-3818 (直通)

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp (代表)

試験研究課題名 : クマをはじめとする野生動物との軋轢軽減へ向けての地域一体となった取り組み (研究期間 : H24年7月～H28年7月)

